

令和7年度 第3回 双葉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年12月9日（火）14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 双葉小学校 会議室
- 3 出席委員 河邊 忠一、平岡 廣二、加藤 泰弘、伊東 敏郎、水野 久美子、大羽 恵子、蓑 悅子、木村 理、大嶋 雅也、服部 知里
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 加藤 晴康（南部協働センター館長）
- 6 学 校 支援コーディネーター 岡野 真知
- 7 学 校 中村 憲司（校長）、滝川 宏美（教頭）、齊藤 幸宏（教務主任）
馬渕 康枝（CSディレクター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 馬渕 康枝
- 10 議長の選出

司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めるところ、水野委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) キッズチャレンジビジネスについて
- (2) 学校評価について
- (3) 学校運営協議会自己評価

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数10人全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

(1) キッズチャレンジビジネスについて

議長の指示により、6年生担任からキッズチャレンジビジネスに向けて取り組んだ活動について説明があった。製作・販売を通して様々な経験ができる、協力や感謝の心が育ち、大きく成長したという報告があり、委員からは、以下の発言があった。

・製作活動にボランティアとして参加したが、通常学級とわかば学級の担任同士の連携ができていたことを感じた。わかば学級の子供たちも通常学級の子供たちと一緒に製作できる内容の工夫を取り入れられていて、やりがいがあったと思う。（蓑委員）

・次年度に情報を伝えることと、5年生からの下準備をしておくことが必要だと感じた。

（大嶋委員）

・先生方とコーディネーターとの連携が上手くできた。子供たちの基礎能力を感じた。

（大羽委員）

・24人という少人数であることが、集中力の持続につながり、わかば学級の子供たちも一緒に取り組めたのがよかったです。（服部委員）

- ・子供たち一人一人の活躍の場があった。昨年度の布地の端切れを使って資源を有効活用するという SDGs の考え方を取り入れた製品が素晴らしかった。(河邊委員)
- ・今年の子供たちは声がよく出ていた。接客の中での挨拶も優しさに繋がる。(平岡委員)
- ・接客においては丁寧な言葉使いができていた。(河邊委員)
- ・製作・販売もよくできていたが、改めて考えてみると、難しいことをやっているんだなと感じた。(加藤委員)
- ・模擬販売他、昨年度より参観の案内が少なくて、もう少し見たかった。当日は工夫が見られ、声も出ていて良かった。(伊東委員)

(2)学校評価について

議長の指示により、教務主任より説明の後、2つのグループに分かれて協議し、発表があった。

【①グループ：河邊会長、伊東委員、水野委員、服部委員、木村委員、教務主任】

- ・子供が目標到達に対して肯定的に捉えている。子供が「できている」と思うことが第一だが、保護者には伝わっていないかったり、分からなかったりする部分もあり、評価をするにあたって迷うこともあったのではないか。保護者への伝え方として、アンケートと共にグランドデザインも活用する。家庭と学校とでは子供の様子が違うこともあるので、子供の話だけではなく、ブログも見てもらう。
- ・項目が小学生にとって抽象的
- ・「伝えたいこと」はキッズチャレンジビジネスにもつながる。
- ・「学校のきまりを守って生活している」は児童と学校職員とのギャップがあり、ギャップを埋めるには三者面談などの振り返る機会が必要。

【②グループ：平岡副会長、加藤委員、蓑委員、大嶋委員、大羽委員、岡野CD、教頭】

- ・教員の評価が中間期より下がっているのは何か原因があるのか。
- ・『やりたいこと』を見つけて」だけではなく、「やりたくないこともあるが、よく分からないけど、やってみたらおもしろい」ということもある。
- ・社会の変化がある中、地域と保護者が理解し合ったうえでの活動や、〇〇教室などの外部人材を活用した学習で経験を積むことが必要だろう。
- ・キッズチャレンジビジネスは、子どもと教員との関係性や、コーディネーターやボランティアとの理解・工夫のもと、活動の価値を共有して作り上げた。ブログでも共有できた。

(3) 学校運営協議会自己評価

議長の指示により、教頭より説明の後、2つのグループに分かれて協議し、発表があった。

【①グループ：河邊会長、伊東委員、水野委員、服部委員、木村委員、教務主任】

評価 1・2

- ・意見を自然と活発に出しているのが有意義である。
- ・学校への参観機会が昨年より少なかった。学校からの案内がないと学校へ行きにくいため、学校公開日を作つてほしい。研究授業の続きも見たかった。

評価 3・4

- ・情報発信のためにCSだよりを作る。CSだよりを作るボランティアを募集する。地域の回覧板やブログの発信力を利用する。
- ・学校支援ボランティアを登録制にして、いろいろな人材を集める。どう引き継いでいくのかが課題。
- ・キッズチャレンジビジネスや授業について書く欄がない。目標につながる大切な事柄なので記述したい。
- ・書き初めや九九テストなど、保護者ボランティアが授業に参加できるとよい。

【②グループ：平岡副会長、加藤委員、蓑委員、大嶋委員、大羽委員、岡野CD、教頭】

評価 1

- ・全員参加会の中止が残念だった。
- ・基本方針は継続的なものなので理解できた。
- ・「わくわく」は子供にも分かりやすい。

評価 2

- ・保護者のボランティア登録で活動が活発化して、地域と保護者の交流が生まれた。子供にとってもさらなる将来につながる活動になる。
- ・学校運営協議会がまだ知られていない。

評価 3

- ・ホームページは進んで見ている人がどれだけいるか。
- ・CSだよりの作成にはまだ取り組んでいないが、いろいろな人が入って子どもたちの活動を支えているんだということが伝わると思うので、取り入れていけるとよい。作成者の負担は課題である。

評価 4

- ・情報発信をして関係者以外の方たちにもCSを理解してもらい、支援を拡大する。

13 その他報告事項等

学校支援コーディネーターの岡野様から、ボランティアの活動報告と本年度より新たに図書ボランティアの活動を始めているという報告があった。

司会から、次回会議は、令和8年2月13日(金) 14時00分～16時00分に3階会議室で開催する旨の報告があった。